

会 議 録

会議名		燕市健康づくり推進委員会		
事務局		健康福祉部健康づくり課		
開催日時		平成 29 年 10 月 5 日（木） 午後 1 時 30 分から午後 3 時 00 分		
開催場所		燕市役所 301 会議室		
出席者	委員	甲田委員、高井委員、外石委員、武藤委員、坪川委員、捧委員、柴山委員（欠席）、曾根委員、岩本委員、高畑委員、平原委員、中川委員、川瀬委員（欠席）、田村委員（欠席）、大滝委員、田中委員（欠席）、丸山委員、櫻井委員、亀倉委員（欠席）、込山委員（欠席）		
	事務局等	健康福祉部：小林部長、金子副部長／健康づくり課：佐藤課長、丸山副主幹、細貝副主幹、南波補佐、五十嵐副参事、篠田副参事、坂井副参事、大西係長／保険年金課：広瀬補佐／長寿福祉課：原田補佐／社会福祉課：富所補佐		
公開可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合はその理由				
次第		<p>1 開会 佐藤課長</p> <p>2 あいさつ 甲田副会長</p> <p>3 議 題 (1) 第 3 次燕市健康増進計画策定について (2) 燕市歯科保健計画の進捗状況について (3) その他</p> <p>4 閉 会 小林部長</p>		

平成 29 年度第 2 回燕市健康づくり推進委員会 会議録要旨

平成 29 年 10 月 5 日 (木)

午後 1 時 30 分から 3 時 00 分

燕市役所 301 会議室

(1) 第 3 次燕市健康増進計画策定について 《事務局説明》

○委員

高齢者の場合、食育推進委員会のからみもあって、高齢者に対する食育の推進とあるが、高齢者の食育というとなんか違和感があります。高齢者にとっては食育というよりは食の支援かなと思いますがいかがでしょうか。

○事務局

ご意見ありがとうございます。

○議長

燕市は、メタボリックシンドローム、糖尿病、脳卒中が問題となっております。それに限らず子育て支援、育ちざかりの人たちを含めた計画を作っていると思いますが、だいたい網羅してもらっているのでしょうか。

○委員

いままでの計画の評価について比べると、計画の 45 ページ以降において、二重丸とか三角とかついていてわかりやすくなっていると思います。

質問ですが、胃がんリスク検診について、今後も実施されるのかどうか。やろうと思った目的が達成できたのか、何人受けて、どれくらい費用がかかったのか、何人精検になっているのか、そういったまとめみたいなものを行っているのか教えていただきたいと思います。

○事務局

胃がんリスク検診は、最初、保険年金課が主体となって実施したもので、がんの発見率等については細かく示しております。今年度から健康づくり課でも国保以外の方を対象に実施しております。これからの実施になりますので、評価につきましてはこれからになります。計画の中には載せておりません。目的としては、燕市は胃がんの死亡率が高いということで、死亡率を下げる、早期に発見し胃がんのリスクを低下させることで、医療費の適正化につながり、死亡率を下げることもつながっていくということで実施しております。データ等については、あとでお示ししたいと思います。

○議長

胃がんリスク検診については、成功した事例ではないかと思っています。医療費分析はどうなっているのか、お示しいただきたいと思います。

○事務局

胃がんバリウム検診ですと、1,000人に一人ないしは二人の発見率になっております。ただいま保険年金課の事務報告が届きましたのでご説明させていただきます。平成27年度では、561人受診され、胃がんの発見者は7人になっており、平成28年度は584人受診され、胃がんの発見者は6人になっております。バリウムよりも発見率で8から10倍の発見率になっております。

○議長

医療費分析の方もお願いします。

育ちざかりの健康づくりということで0歳から18歳のスマホやインターネットの関係が載せてありますが、前回の会議で、学校が終わったあとの夜のクラブ活動で時間が遅くなって困るというお話があり、学校の方針と異なっているという話がありましたがいかがでしょうか。

○委員

子どもたちのメディアコントロール、スマホとか長い時間やっついて寝る時間が遅くなる、生活習慣が乱れがちになるなど、家庭での学習習慣に影響があるとの話はでています。市内のどこの学校においても、その問題をかかえております。

質問ですが、41ページのメタボリックシンドロームと食べる時間の早い人との密接な関係についてですが、よく噛んで味わって食べる生活習慣が大切なことや遅くなって食べると翌朝、胃がもたれたりするということはわかっているのですが、早く食べると食べ過ぎになるのかなと思ったりするが、よくわからないので教えてほしい。

○事務局

食べる早さについての関係ですが、42ページの図70に載せてありますが、市の特定健診を受けた人の中で、早く食べると答えた人たちの方が、メタボの人が多かったというデータがでました。早く食べると満腹中枢が働かないうちに、いくら食べてもおなかいっぱいにならずに、どうしても食べ過ぎてしまうということで肥満につながっていくのではないかと思っています。そういった解決策として、「つばめ元気かがやきポイント事業」のなかで、よく噛んで食べるということで、1回に30回は噛みましようとかゆっくり食べる方法について、みなさんに普及啓発しているところです。その他補足がありましたらお願いいたします。

○議長

おそらくその辺がいちばん大きい理由かと思っています。あともう一つは、腸管ホルモンで、糖を吸収するホルモンで糖の出方を抑制したり、調節したりしてホルモンの出

方が変わってくるというもので糖尿病に関係してくることもあると思っております。

○委員

いまほど子どもの睡眠についての話がありましたが、だいたい社会体育の活動については、この会で話題になったことがきっかけで、協会のほうから各関係団体にご指導いただいているので、だんだんと就寝時刻が遅いということで体調をくずして学校の活動に影響がある子どもが少なくなってきました。そういった団体に入っていない子や1年生の子でも11時過ぎに就寝している子とか、人の体質もあるとは思いますが、いっぱい寝なくても元気な子もいますが、遅くまで起きている原因はどこにあるか、いろいろとあると思いますが、最近は親子さんの生活習慣、生活スタイルに影響されているのではないかなと思います。おうちの方の帰りが遅いと、それから親にいわれてから宿題をしたりとか、次の日の準備をしたり、お風呂に入ったりして、どうしても遅くなってしまふ。親子さんが帰ってから子どもたちの準備がスタートになってしまう。どういうふうに働きかけていけばいいのかというのが、今の課題です。

資料を見てみますと、就学前の子どもの実態がわかるデータが載っていますが、1歳児、3歳児の就寝が遅いとか、肥満の関係とか、こころの面とか、睡眠が影響しているのではないかと思われることがいくつかあって、それについての対策を市全体で進めていってほしいと思います。

○議長

計画の中に、睡眠の大切さとか、睡眠がいかに病気予防になるとか、精神的な健康に重要だとか盛り込まれていますか。

○事務局

計画案の59ページの基本目標に、こころの健康の重点施策のところ子ども頃からの良質な睡眠習慣の推進ということで子どもだけでなく大人も含めた適切な睡眠の取り方などの方法を普及啓発していこうと計画に入っています。

○議長

もう少し具体的に睡眠が遅いと、短いとどうだとかというデータが入れられればいいなと思います。いま委員がいわれたことは、かなり構造的な部分で、すぐに改善できるものではないと思いますが、その辺の重要性について図表などを入れたりできればと思いますのでよろしくお願いします。

○事務局

検討させていただきます。

○委員

計画については、健康づくりで広く市民向けにアプローチしている部分と、個別には細やかに書かれてあって、あの手この手で取り組んでおり、これからも取り組んで

いくとなっており、丁寧な計画になっていると思います。

(2) 燕市歯科保健計画の進捗状況について
《事務局説明》

○委員

資料 1-1 の 43 ページに平成 28 年度の 12 歳児のむし歯の本数が、新潟県平均を下回っているとなっており、燕市は 0.24 本、新潟県は 0.44 本となっております。12 歳児は、おおむね乳歯から永久歯にはえかわる時期で、むし歯の数は永久歯のむし歯の数がいくつあるかということで、新潟県は、0.44 本ということで、17 年連続全国でむし歯の数が少ない県としてトップを走っています。燕市は、0.24 本と県より下回っているわけで、これ以上下げることは難しいのかなと思います。

52 ページの在宅要介護者等歯科保健推進事業のなかの訪問歯科健診事業ですが、平成 24 年度は 45 件、平成 28 年度は 28 件で平成 29 年度は 50 件以上にしようということで、減った理由として、ふたつ考えられます。一点は、燕市と一緒に実施しているこの事業は、新規の要介護 3 の方に対してお知らせしています。更新期間が 24 ヶ月に延長なりまして、新規の要介護 3 の方が減ってきている点があり、お知らせする数が減ってきている。新規要介護 3 だけでなく、対象者を広げる方向にしていかないと増えていかないと思います。もう一点は、資料 2 の下の方に、介護を要する人、障がい者の欄で、訪問件数が、平成 27 年度 53 件、平成 28 年度が 66 件とありますが、いままで連携室が開設されるまでは、どこに訪問診療を依頼すればいいのかわからなかったわけで、窓口が在宅要介護者等歯科保健推進事業のなかの訪問歯科健診だけだったけれども、連携室が開設されたことによって、ある程度依頼がくるようになって減ってきたのではないかと思います。

○議長

窓口がふたつあるということですか。

○委員

県の事業と連携室があるということです。

○議長

新潟県は、子どもの歯に関してすごいと思いますが、燕市は県のなかでどのくらいの位置にいるのですか。

○委員

ベスト 5 には、入っていると思います。

小学校の検診で、ほとんどむし歯がなくて、一部の子がたくさんあって、そこに着手しないと減っていかないと思います。

○議長

ターゲットは、そこにと思われますか。

○委員

いまの仕組みでは、介入できないと思います。

○議長

高齢者の嚥下に関してはいかがですか。

○委員

最近、嚥下障害の依頼が多くなってきていますが、実際は、脳血管疾患の後遺症の麻痺で、嚥下機能が落ちる場合があります。私の感覚では、半分以上が低栄養が原因と思っています。低栄養になって、力がなくなれば、噛む力、飲み込む力も無くなる人が多い。栄養を補助すれば、1ヶ月くらいたつと活気が出てきて、嚥下機能がよくなります。高齢者の低栄養については、重点的にやっていっていただければと思います。

○議長

体のためだけでなく、ロコモとかフレイルとかいわれていますが、おそらく歯科の方も同じように動いていて、歯科との関連もあると思いますので、一緒にやっていければと思います。

(3) その他

○事務局

第3次燕市健康増進計画については、このあと議会に報告させていただき、パブコメを実施し、3月に再度、議会に報告させていただき完成予定となります。委員の皆さまには、その前の2月1日の第3回の委員会においてご報告させていただきます。